



平成15年度 神社庁神宮大麻曆頒布始祭

## 何故？活動はこれから

副 厅 長 河野雪雄



## 第百六拾五号

発行	さいたま市大宮区高鼻町1-407
埼玉県神社庁	電話048(643)3542番
編集室	印 刷
印 刷	アサヒ印刷(株)

当県が、平成十三年「一千万家庭神宮大麻奉斎運動」の第八期特別指定県として、他の四県と共に活動を開始してから既に二年余、間もなく期間最後の大麻頒布の時期に入ろうとしている。この間、神社庁全組織・県総代会の総力を挙げての活動によって、大麻頒布体数がV字回復とは行かぬまでも、逐次回復の傾向を示しつつあるのは評価に値するものと言つてよいのではないだろうか。

しかし、問題は今後如何に推移するかである。私は「指定期間」といふのは、短期間内の増体を強調期待するよりは寧ろ、神社を巡る昨今の厳しい社会環境に耐え得る地道で強固な頒布体制を築き上げるべき期間ではないかと思つてゐる。

その意味において、もし、この二年余りの努力が一時的皮相的なものであつたならば、指定期間終了後、過去のような所謂巡航速度の頒布活動体制に戻り、年々減少の一途を辿つてゐるという全国レベルの現実と軌を一にすることになるであろう。

今日のデフレ不況の経済環境下にあつてなお、ダントツの業績を挙げている「トヨタ自動車」という会社がある。此處では、課題の解決に取り組む際、問題に対して“何故？”を五度繰り返し、その根本原因を突き止めてから対策を立てて実行に移ると言わわれている。

我々が対象とする一般社会と企業社会とでは、その課題解決の存り様も同日の論にはならないが、我々も亦、神宮大麻頒布体数の減少という社会的課題にチャレンジするに当たつて、“何故？”と、もう一度聞いて最底辺に横たわる原因を見極め、その解消に向かつて活動を続けなくてはいけないだろうか。

## 神宮大麻奉斎について

宮川清彦

氏神様に渡され、神職を始め頒布奉仕者の尊い真心により各ご家庭に配られていきますが、その神宮大麻について少しご説明をさせていただきたいと思います。

### 伊勢の神宮



百二十五社からなる伊勢の神宮は天照大御神をお祀りする皇大神宮に代表され、二千余年の時を超えて今に至っています。皇位の継承と共に伝えられてきた三種の神器の一つ、「八咫御鏡」を御神体とする皇大神宮は、第十一代垂仁天皇の御代に皇女倭姫命により創建されたと伝えられ、明治天皇の御製にも「神風の伊勢の宮居の事を先つ今年も物の初めにそきく」と御詠み遊ばされていますように、皇室の御崇敬ことのほか篤いお宮です。また、国民にとつても「お伊勢さん」「大神宮さん」として昔から親しまれているばかりか「心のふるさと」「総氏神様」と親しみつづれられる尊貴無双のお宮であり、今日も多くの方々で賑わっています。

### 天照大御神

神宮大麻は全国津々浦々に頒布されるところから、頒布大麻とも呼ばれる伊勢の神宮の御神札です。三種類の神宮大麻を神宮司庁の頒布部で奉製し、お祭りが幾重にも重ねられて九月十七日の神宮大麻曆頒布始祭を迎える。その後、大麻は各県神社庁を通じ各地の

日の大神様にも例えられる天照大御神は神話の「天の岩戸」に語られているように、慈しみと思いやりに満ちた神様で、八百万の

神々の中には最高至貴の神として讃えられています。大御神様の統べる高天原は平和な世界でしたのが素戔雄命の乱暴な振る舞いに嘆き悲しみ、岩戸（洞穴）の中にお隠れになってしまいます。世の中は真っ暗闇となり、悪しきことや災いが次から次とまき起こり、大きな混乱が生じました。神々は相談の上、代え難いご神徳の大御神様に何とかお出まし願おうと一計を案じ、以前と変わらぬ賑やかな世界を演出して大御神様の気をひきます。大御神様が不思議に思い僅かに岩戸を開けた瞬間、力持ちの神様が扉を開け、再び世の中は天地に通じる秩序を取り戻し光溢れる平和な世界に甦ります。さて、この物語で注目したいのは神々の行為をお怒りになつて罰したり再びお隠れにはならず、むしろ窮状を理解しておおらかに受け入れておられることがあります。また、素戔雄命も追放するに止めていますが、代え難いお力を持つ大御神様は他者を権力と暴力で従わせるのではなく、調和と協調により和をもつて治める神様であると分かります。そしてこの物語に代表されるように、日本の神話は西洋のそれに見られるような絶対的価値を強調する世界観ではなく、所謂「仁」を基調に調和をもつて語られており、このことに私たち大いなる誇りと自負をもち、若い世代には是非語り継ぎたいものの一つであるように思います。折りしも北足立支部に於かれましては、天の岩戸の神話劇を上演される由を承っておりますが、日本神話への

親しみを促す好企画に敬意を表する次第です。

御祓大麻から神宮大麻へ

天照大御神様の大きな温かい御陰に包まれ、國も人々も豊かに幸せに暮らすことが出来るようになると、明治天皇様の思し召しにより全国に配られるようになつたのが神宮大麻で、平成十四年でちょうど頒布百三十年を迎えた。二千年という神宮の歴史の中にあっては、大変短く感じられるかも知れませんが、それまでにも神宮の御神札として私的に頒布されていたものがありました。それは、「御師（おんし）」と呼ばれる祈祷者たちが個々に作り頒布した「御祓大麻（おはらいおおぬさ）」といわれるもので、その起源は平安時代の末期にまで遡り、御祓いさんなどと呼ばれ多くの人たちに御祀りされていました。戸時代には御師たちの活躍で神宮奉贊の気運が高まり、お陰参り・抜け参りが大いに流行し、その御神札も全國の九割以上のご家庭に配られていましたが、明治になりますと御師たちの状況は一変し、活動も配札も停止となります。これは神宮御改正の一環でいましたが、當時、神宮と國民のつながりは、御師がその役割を担つており、紡がれゆく國民の真心と神宮との間で神々への祈りを取り次ぎます。これが出来るようにとの配慮から、後に神樂殿となる祈祷所と授与所が宮域内に設けられ

祈祷は御師の手を離れます。また、御師たちが祈りを込めた御祓大麻も奉製・頒布が出来なくなり、新たに「神宮大麻」として神宮にて直接奉製・頒布されるようになりました。そこには個々の祈りの中からではなく、神宮自らが皇室・国家そして国民一人一人に至るまでの祈りを込め、国民の真心に応えるものとするもので、明治五年から奉製・頒布が行われています。頒布はその後、神宮から関連団体に移り、戦後は神社本庁に委託して現在に至っています。御師たちは伊勢信仰の伝播と御神札の普及という偉大な業績を残し時代の変遷の中に消えていきましたが、神都伊勢を万人の心にも忘れ得ぬものとした担い手として末永く語られていくことでしょう。

## 大麻奉斎の意義

神宮には陛下に代わつてお祭りに奉仕される方がいらっしゃいます。「神宮祭主」と申し上げ、陛下御自ら任せられます。宮中と神宮の祈りはご一体であり、それは全国の神社での祈りでもあります。宮中から、伊勢の清められた杜から、そして鎮守の森から発せられる祈りは平安への願いであり、神宮大麻に込められる祈りでもあります。神宮大麻の減体は日本の国情の変質を示唆し、秩序の崩壊・民族の衰退の始まりに他なく、笑顔の子供たちを未来永劫育んでいく意味においても頒布推進は重要な意味を持つものと思います。

終わりに



## 平成十五年度教化研修会報告

澤田 豊行

神宮大麻奉斎運動の最終年度を迎えた本年度の研修主題は「とりもどそう日本の心」、副題として「伊勢信仰の高揚と氏子への働きかけ」をきっかけ、九月十・十一日に三峯神社で宿泊研修会を行つた。

研修会に先立ち埼玉県内の全宮司様に大麻増頒布に関するアンケートをお願いした。具体的な取り組みや氏子総代等への働きかけ、その効果・反省点等を書いていただき、これを分散会の資料やまとめに活用した。

頒布方法は支部や神社により異なるようであった。群馬県教化部長である板倉町雷電神社宮司の江森隆裕先生からは群馬県の神社の実態等についてお話していただき、神棚のない家庭もふえてきていると本県と同じような悩みなど具体的なお話をされた。

続いて県内の神職五人による実践発表につり、水宮恒氏(敷島神社禰宜)から各家をまわって増頒布に努め、五十二年の一五〇〇体から本年は三四三〇体頒布するまでにふやした。大変ではあるが自分で家々に届けて崇敬者との意志の疎通をはかるようにしているという。次に江森斎氏(富士神社宮司)からは本兼務の十七社で氏子総代連合会を組織して神道高揚をはかり、九十五%の家に三五〇〇体を頒布していることを紹介された。次に福井千秋氏(高城神社宮司)からは神社の職員の研修や頒布活動を盛んにしたり、報道機関の活用も考えていかねばと発表された。吉田律子氏(氷川神社禰宜)は神社人としての意識を常日頃大切にして教化に努めておられる

本年は山梨県教化委員長と群馬県教化部長をお招きして講話を願いした。富士山五合目の小御嶽神社宮司である小佐野正史先生からは山梨県の神社界の実態や地域による特殊な実情などお話をいただいた。神宮大麻の頒布方法は支部や神社により異なるようであつた。群馬県教化部長である板倉町雷電神社宮司の江森隆裕先生からは群馬県の神社の実態等についてお話していただき、神棚のない家庭もふえてきていると本県と同じような悩みなど具体的なお話をされた。

今年度は分散会の後は、自由な話し合いができるよう懇親会も設けられた。三峯神社の御配慮で懇親も深まり、参会者が本音を出し語り合うことができた。

分散会報告には教化研修部員がこの夜のうちに印刷し、その資料をもとに発表していた。分散会の質疑応答の席でも、実例が多く出され有意義な会となつた。

最後のまとめは「神宮大麻の増頒布を願つての工夫と努力」と題するアンケートの調査の結果を前日全員に配布しておき、これ等を中心にお詫び副委員長からお話をいただいた。

多くの人々の御理解・御協力のもとに新たな形で宿泊研修ができ、また三峯神社の宮司様を始め職員の方々に御高配賜りましたことを厚く御礼申し上げ報告とさせていただきま

ことを発言され、私澤田(鷲宮神社宮司)は神社界以外の人達も神宮大麻のことを心配されているので、大麻頒布について繰り返して訴えていかねばならないと述べた。

平成十五年度教化研修会基調公演①

とりもどそう日本の心

伊勢信仰の高揚と氏子への働きかけ

小佐野正史



かし都市部の過密化により氏子意識の希薄化・核家族化・単身世帯による祭祀継承の断絶化・高齢化世帯の増加・生活環境・都市化等々による社会的環境により日本人の価値観や家族のあり方の変化が読みとれるのであります。

神社本庁において「一千万家庭神宮大麻奉斎運動」(昭和六十二年より)を提唱してから、はや十五年以上の年月を経ておりますが、平成六年をピークに全国的には減体の一途をたどっているのは残念であります。当山梨県においても、やはり平成六年がピークでありましたが、その後大きな減体はみられず、むしろ頒布方法によって増頒布を続けている地域もあります。

○県教化委員会では、神宮大麻増頒布の本旨は、家庭祭祀・神棚奉斎の復興であると考え、次の事業を展開しております。

○新聞意見広告(年二回)

○ホームページによる広報

○山梨の神社とまつり写真コンテスト及び写真展の開催

神宮大麻の減体は、神社信仰の衰退に繋がるという危機感をもつて考えなければいけないと思います。

鎮守の森が地域社会の心のよりどころであるように、神棚は家族の心のよりどころであり、我が日本人は神宮大麻や氏神の御札を奉斎した神棚に日々手を合わせ、神の恵みに感謝し、家族の平安無事を祈つてきました。し

○神社序においては、特に兼務社の大麻頒布は総代にたよるところ大であります。総代の意識高揚を図る為

○総代会の組織教化

結び

戦後、我が国の社会や学校や家庭での教育の場から何れも締め出されてきた国民精神、民族精神の掘り起こしに努め、「神道のこころ」「日本のこころ」を宣揚しつつ、我々神職は邁進して参らなければなりません。悠久の歴史の中で培われた民族の精神は、時の流れにさまよい、たとえ表面上は希薄化したに見えて、必ず人々の心のどこかに埋もれ潜んでいると思います。

今我々は、これからの人々が求める心のよりどころ、民族精神の根幹思想としての神惟の「こころ」を平易にかみ砕いて解き明かし、時代の要請に応え決して悲觀することなく勇気と氣概を以つて諸活動を展開して参りましょ。

(山梨県神社庁 教化委員長)

- 総代会大会の開催
- 新穀感謝祭への動員
- 神宮初まいりの開催
- 各支部としては大切な事ととらえ
- 総代研修会の開催
- 大麻頒布始祭の盛大なる実施
- ケーブルテレビの活用
- 神社の規模、地域の環境、神職の人柄など実情は複雑であるので個々の各神社の事情・特殊性・氏子の気風など配慮した対応策を立てて実施しております。
- 支部においては、各支部での対策推進は大切な事ととらえ

## 平成十五年度教化研修会基調公演②

## 群馬県からのメッセージ

江森隆裕



支部の支部長と教化委員が出席します。そこから教化部長一名、副部長二名が選任されます。

この会議は年一回開催され、正副部長会議を隨時持つことができます。教化部は決議機関であり、事業を行うとなつても、現場に出て動けるのは正副部長三名だけであります。

本県には外郭団体として、教育関係神職会、婦人神職の会、青年神職会の三団体があります。この外郭三団体の協力を得てはじめで、教化部の仕事が出来ることとなりました。

そこで子供たちへの働きかけから始めよう

ということになり、三年前の六月、教化部直接の仕事として、初めて「子供神社参拝体験学習」を開催するはこびとなりました。第一回の会場は世良田東照宮。六月中旬の日曜日。梅雨時でしたが、幸い、曇り空。

子供の数はおよそ五十名。開会行事に続いて、まず、婦人神職が担当して、玉串拝礼、手水、参拝の作法を指導。お母さんたちの力は偉大で、子供たちの気持ちがだんだん集中して来るのがわかります。

次に、習ったことを生かして、昇殿参拝。子供たちがお互いに教え合っています。玉串を奉つて拝礼。青年神職が三管を奏でます。期待してのことあります。

群馬県神社では、十五の支部から教化委員が一名ずつ選ばれ、教化会議には、全十五

とでしょう。

境内にシートを敷き、グループに別れて昼食。神職が一緒になって、食前食後の感謝。

子供たちの好みを調べて用意したカレー弁当。午後は、青年神職が、良いお兄さんになります。

こんな風景はめったに見られません。きっとゲーム。青年神職が、生き生きとしている。

みんなが体を動かして、仲良くなつたころ、神話の紙芝居。婦人神職の朗読も絶妙であります。子供たちが、なんと、シーンとして聴き入ったことか。

次にお兄さんたちの指導で、実際に子供たちが雅楽器を使って音を出します。好評でした。一日の時間の経過とともに子供たちの目が生き生きして来ます。やつて良かつとも思います。

青年神職が書いた感想文です。「現在の神社界に一番足りないことを実行していたと思う。われわれは収入が安定しないこともあります。どうしても経営的な面ばかりに重点を置きがちになる。神社とは、心の教育を行う場ではないかと思います。」私も、そう思いました。この研修会の主題「とりもどそう日本的心」にも、最も近いところに迫るものであるとも思います。

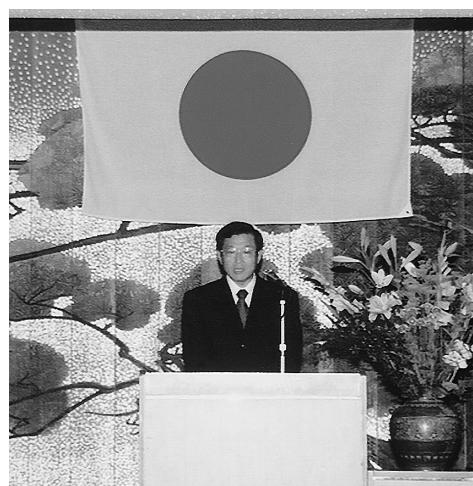
皆様の更なるご活躍を、心よりお祈り申し上げます。

(群馬県神社庁 教化部長)

## 平成十五年度教化研修会

## 神宮大麻頒布実践報告

水宮 恒



募集をして頂いている。

顧みれば、昭和五十二年に水宮家に入り、初めは見ず知らずの土地に来て、氏子の人達に自分を知つてもらうにはどうしたらよいのか、又如何に氏子の中にとけ込んでいくか。そうした中で、私にとつて大麻(かまじめ)頒布は絶好の機会であった。以来、早二十六年、今では氏子崇敬者の家は大半熟知している。

毎年十二月一日から志木市内の各家庭に訪問を仕始め、教化の一環として“むすび”を添えて頒布している。

◎増頒布するに実践してきた事  
一、正月三が日社頭授与(現在本務社他五社で実施)

一、立正佼成会に働きかけて会員に頒布

一、建設土木業者、不動産業者に積極的頒布

一、地祭・家祓等の祭事でお世話になった家への頒布

一、会社・工場に訪問して、そこで働く社員への頒布

一、年末の数日、社務所に出向いての頒布

水宮家は代々法印で、摩訶山般若院と号し寺子屋を営んでいた。明治五年学制が発布され、地元水谷小学校の初代・九代校長になるなど、地域の教育に深く関わって来た。そうしたこともあってか、村内(富士見市水谷地区)の氏子の人達は、正月三が日祝儀袋を持って御年始の挨拶に来る風習があり、我が家からも小正月迄に、返礼として各家庭に伺い、何かと交流を図つて来た。近年氏子以外の崇敬者も、これにならつて挨拶に来るようになり、御神酒・茶菓子を出したりで、大変な忙しさである。村内も昔から一軒一軒大麻(かまじめ)頒布をしていたが、数十年前から総代が各家に配るようになり、それに合わせて新年諸祈願の

会社を始め新規奉斎者宅には、暮に神札を届けるようにしている。家にお届けすることによって、その家の様子がわかり世間話をしたり相談を受けたり、意志の疎通を図るといふか、心の繋がりを考え取えてそれを実行している。長年の実践で氏子崇敬者と大変のめつこくなつたと思つてゐる。食事やお茶をご馳走してくれる家、ローソク代、参拝出来ないでの賽銭を包んでくれる家、野菜や物を持たせてくれる家など頒布していると有難いこともあります。家庭訪問の頒布は夜遅くまで頒布の第一歩は家庭訪問」と題して掲載されていますので、関心のある方は御覧下さい。  
(敷島神社彌宜)

## 一平成15年度 教化研修会日程表

9月11日(木)	9月10日(水)
起 床	5:30
奥 社 登 押 (雨天時・祭事不参加者は朝拜)	6:00
朝 食 (荷 物 整 理)	8:00
分 散 会 報 告	9:00
休 憩	10:00
分 散 会 質 疑 応 答	10:10
ま と め	11:10
閉 会 式	11:30
昼 解 食 散	12:00 午後 1:00
	1:30
	2:00
	3:10
	3:20
	4:30
	4:40
	6:30
	7:00
	8:30
神宮大麻頒布実践者による講話 講師 小佐野正史氏	
神宮大麻頒布実践者による講話 講師 江森隆裕氏	
休 憩	
神宮大麻頒布実践発表	
休 憩	
分 散 会 洗 浴	
懇 親 会	
就 寝	

神社庁研修所

## 主任講師就任挨拶

高橋千里



つていく神職にとって大変重要な研修会です。そこで、各講師たちも日頃は社務等に追われ、学校で学生達に教えられるようにはいきませんが、研修会に合わせ、それぞれが実践を踏まえ乍ら、初任神職研修が有意義なものになるよう、真剣に取り組んでまいります。

今年度より、研修制度の一部改正があり、初任神職研修

此の度は、埼玉県神社庁主任講師を拝命することになりました。及ばず乍ら職責を努めさせていただきたく存じますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

さて、当埼玉県神社庁研修講師は全員で十八名ですが、他県に比べ若手主体となつております。講師就任は、講師自らの研修研鑽の機会ともなっています。

講師陣の主な仕事は、毎年、寶登山神社を会場として開催されている、初任神職研修会に於ける各科目的担当です。初任神職研修は、これから神社界を背負



平成15年度 初任神職研修会

「神宮に関する講義」が設けられることになります。

た。

神社神道は、日本の風土の中から生まれ、

大勢の祖先達によって培われて来た伝統宗教です。その自然観や人生観は世界的にも注目されるほど、沢山のすばらしい教えや考え方

が内蔵されています。それを生かして行くのが我々神社人の努めではないかと思います。

皆様におかれましては、今後共、埼玉県神社研修講師会に対しまして、御指導・御鞭撻・御意見等戴けますようお願いすると共に、皆様の益々の御活躍、御繁栄を御祈念致しまして挨拶とさせていただきます。

一宗教法人として、神社本庁に所属する

ことになった訳です。その本質について

は、学校でも家庭でも教えられず、神宮に対する国民の理解がだんだん薄れる中で、神宮・遷宮の問題等、神社界に課せられた役割は益々大きくなつて来ていると言えます。

神社神道は本来「言挙せざ」という伝統がありました。それは言挙せざとも、地域社会や各家庭の中で、当然の如く受け継がれ、語り継がれて守られて來たからですが、現在では、地域社会も社会構造の変革、各家庭も核家族化により、伝統の继承は難しくなつて來ています。そうした中、従来通りのままでは、

神社本来の姿や日本人の心そのものまで失われ兼ねません。我々神職は、神明に奉仕すると共にしつかりとした教学を持ち、敢えて言挙し教化活動にも力を入れて行かなければならぬと思います。

神宮は皇室の拠り所ともいえる重要な神社ですが、戦後の混乱の中で已む無く中で已む無く、皆様におかれましては、今後共、埼玉県神社研修講師会に対しまして、御指導・御鞭撻・御意見等戴けますようお願いすると共に、皆様の益々の御活躍、御繁栄を御祈念致しまして挨拶とさせていただきます。

(神社庁主任講師)

平成十五年八月五日～七日開催

## 初任神職研修を終えて

平田長保

今回、私はこの初任神職研修に参加して神職としての務めを改めて考えさせられました。

私は三峯神社へ奉職して四年目になります。やはり四年にもなりますと職場にも慣れ、後輩もできて神明奉仕というものに対し少し加減になっていた様な気がします。

ですがこの研修に参加して神職としてあるべき姿を再確認することができました。又奉職をすると学生の時みたいになかなか勉強ができなかったので今回の研修中の講義は大変勉強になりました。特に勉強になつた科目は、「神宮に関する講義」と「神社実務」です。神宮に関する講義は本年からカリキュラムを取り入れられたと伺いました。確かに今、我々神職が一番やらなくてはいけないことの一つに神宮大麻の頒布があると思います。

神宮のすばらしさ、大きさ、神宮大麻の意味を氏子さんや崇敬の人達に伝えていかなければいけません。それを伝える我々が神宮の事を知らなければ、伝えたくても伝えられるはずがありません。

私は恥ずかしながら神宮の学生で、お伊勢様の御膝元で一年間勉強し、多少神宮の知識はあったのですが、今回の講義で新たな発見

ができ大変参考になりました。

神社実務は本当に勉強になりました。今は神職がたくさんいる所に奉職していますので行う社務も限られています。ですが私は社家なので何れ家へ戻らなければいけません。その時は、何から何まで自分一人で神社の運営をしなくてはいけないので不安でしたが、この講義を聞き、「ああこんな事をして、こんな所に注意すればいいんだ」ということが少し解つたような気がしました。

三日間という短い日程の中での集中講義では全部理解できませんでしたが、この二点の事だけは大きな収穫だったと思います。

又祭式部門での講習では初心に帰つて自分の作法を見つめ直す事ができました。自分のお社で神前奉仕している時、決して難にやつていなかった。自分のお社で神前奉仕している時、決して難にやつていなかった。いつもでも、やはりどこかで手を抜

いていたような気がいたします。これからはこの祭式講習を思い出し、神様に失礼のない様な作法に務めてゆきたいと思います。

この三日間の研修を通して多くの事を学

び、そしてかけがえのない仲間達と出会えました。この経験を生かし、日々神明奉仕に務めてゆきたいと思います。

結びに三日間お世話になりました講師先生方、又会場神社である寶登山神社中山宮司様をはじめ職員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

(三峯神社権禪宣)

初任神職研修日程表  
(平成15年度)

8月7日(木)	8月6日(水)	8月5日(火)	時間
起床・洗面	起床・洗面		6:30
特殊神事(5:30) 「御祓上祭」参列	朝拝・神道行法(禊) (小野川)	一會場一 寶登山神社	8:00
朝食	朝食	受付	9:00
神社実務 (渡邊)	神職奉務心得 (梅田)	正式参拝・開講式	10:00 10:30
祝詞 (中山)	神職奉務心得 (諏訪)	本府史 (林)	12:00
休食	休食	休食	13:00
祭式 (千島幸・仲富)	神職奉務心得 (大澤)	本府史 (新井)	14:30
高梨・竹本)	神職奉務心得 (千島幸)	本府史 (新井)	16:00
意見アンケート提出 閉講式	神宮に関する講義 (高橋克)	神宮に関する講義 (馬場)	17:30
	夕食	夕食	18:30
	神社実務 (前原)	神社実務 (宮澤)	20:00
	夕拝	夕拝・神道行法(鎮魂) (小野川)	21:00
	入浴・就寝	入浴・就寝	

**平成十五年度  
神社関係者大会報告**

新井直行

去る、六月二十五日、第二十四回埼玉県神社関係者大会が、秩父支部当番により秩父市秩父宮記念市民会館を会場に開催された。朝から雨に見舞われる生憎の天候ながら県内各地より七〇〇名の参加があった。

今回開会に先立ち、地元黒谷鎮座の聖神社に約二五〇年前から伝わる黒谷の獅子舞「竿ばかり」が公演された。

井上久総代

会副会長の開

会の辞に続

き、神宮並び

に皇居の遙

拝、国歌斉

唱、敬神生活

の綱領唱和が

行われた。

田稔

敬会長代読中山高嶺埼玉県本部長（副序長）、十屋義彦県知事代読とそれぞれから祝辭を戴いた。また地元からは栗原稔市長が出席され歓迎の挨拶が述べられた。

次いで式典において、神社庁規程に基づき二十三名が蘭田府長から表彰され、総代会恒例表彰においても二十三名の受賞があった。受賞者を代表して秩父神社氏子青年会顧問浅賀克彦氏から、多様化の時代各神社奉護にいよいよ尽力する旨の謝辞が力強く述べられた。

その後、中山高明賀登山神社宮司（秩父支

部理事）が宣言文を朗読、本大会の宣言が満場一致で採決、決議された。五分間の小休止の後神宮大麻領布啓蒙ビデオ「いのち清かに」を鑑賞し、「一千万家庭神宮大麻奉斎運動」の指定県として三年目を迎えた本県関係者は、いよいよその実践に向けて一人一人邁進すべきことが確認された。

次年度当番支部新井正和児玉郡総代会長から挨拶があり、最後に秩父郡市総代会山口芳夫副会長の「聖寿万歳」を全員で高らかに三唱し、午後四時過ぎ河野雪雄副序長の閉会の辞により予定された全日程を滞りなく終了し、雨の残る中散会となつた。

（秩父支部事務局）

開会後、神官遷挙、国歌斎唱、敬神生活の綱領唱和が行われた。

玉県神社序長は現在、埼玉県が「一千万家庭神宮大麻奉斎運動」の指定県になつていていることから、神宮大麻奉斎、神棚奉

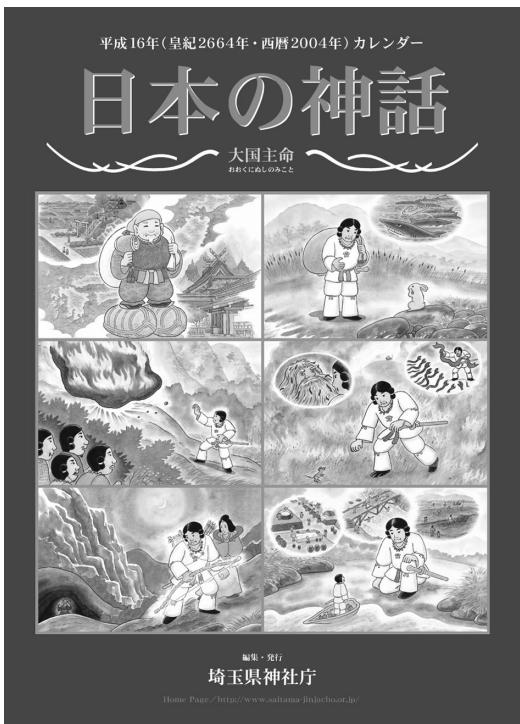
斎の意義啓発の必要性や、伝統軽視が指摘されている中での神明奉仕に携わる神職の役割、責務について提言された。

総会では、恒例の新任神職紹介が行われ、代表者が序長より記念品を授与した。次に神

社序、教化委員会、神道青年会、神道婦人会、教育関係神職協議会からの事業報告が行われた。「家庭祭祀の振興について」の意見交換会では、初めに教化委員会より「服忌について」の説明。「神棚奉斎について」は各支部代表者が、独自の取組、経験、方針等を発表。これを踏まえての質疑応答では、数名の方が質問をし、活発な意見討論が行われ、有意義な時間が送られた。

（富多神社禰宜）





平成十六年神話力レンダー『大国主命』  
「おーい頼んだぞー！」

林 捧  
ぐ  
伊佐雄

「おれ大國主神となり、また宇都志國玉神となりて、その我が女須世理毘賣を嫡妻として、（中略）高天原に氷ぎ高しりて居れ。この奴」

平成十六年神話カレンダーの作成は、昨年九月より着手し始めました。今回は大国王命を取り上げることに決定し、六つの場面に分けて部員が文章を担当、意見交換を行いながら何度も練り上げていきました。

大国主命が根の国で須佐之男命の試練に耐えながら、隙を見て須世理毘賣と共に中津国に逃げ帰る場面があります。黄泉比良坂まで

す。中で一番感動的な言葉だと言われたからで、武田秀章先生が『この奴』を『古事記』の三月の神話啓蒙セミナーにしました。なぜなら、この「おーい 賴んだぞー！」としたらどうですか」と提案されました。さつと光が差し、一同これしかないと瞬時に決まりました。

ました。なぜなら、二月の神話啓蒙セミナーで武田秀章先生が「この奴」を『古事記』の中で一番感動的な言葉だと言われたからです。

いので、しばらく部会を休ませて下さい。」  
「お電話をいただきました。以前から病気と  
鬨いながら、それをあまり顔に出さず部会に  
出席されていたのを知つていましたが、いず  
れ元気に戻つて来られるであろうと楽観視し  
ていました。

七月には各宮司さんにカレンダーの見本を  
発送、協賛のお願いをいたしました。それを  
ご覧になつた入院中の中野さんから二十日朝  
にお電話がありました。

「部会に参加できず皆さんにご迷惑をおかけしています。でも順調に進んでいるようですね。文章も絵もいい出来上がりですね。ただ一つ曇で気になる点があります。」と間違いの部分をご指摘いただきました。これが中野さんとの最後の会話でした…。

その二日後の二十二日、午前四時五十九分に帰幽なされました。享年六十六歳でした。本当に最後までカレンダーのことを気にかけて下さっていました。

「おーい 頼んだぞー！」優しい眼差しで静かに語られた言葉が今でも聞こえてきます。

平成十六年神話カレンダー『大國主命』を  
今は亡き中野至さんに捧げます。私たち部員  
は皆、中野さんから大きな使命をいただいた  
ように思います。そして、心からご冥福をお  
祈り申し上げます。

本等があるはしごを紹介して下さり、伊勢研修旅行の企画の時もいち早く奥様と一緒にで伊勢参りをされ、写真を見せて下さり、ご意見をいただきました。

しかし、六月に入つて、  
「体の調子があまりよくな



## 京都府神社庁と意見交換

前原利雄

去る七月二十四日、京都府神社庁より田中  
恵清序長・齋藤重介副序長（教化部長）はじ  
め、教化委員会一行十一名が来県、当庁教化  
委員会二十名との意見交換会が行われた。

これは昨年七月、蘭田府長を団長に情報部会が中心となって京都府を訪問したことに応

れて、祖父は来訪されたものである。一行は、先ず秩父神社を参拝した後、長瀬町の「長生館」へ移動。相互に情報を交換し合った。その中で、京都府の事業で注目すべきは、行政機関や民間団体・各大学などの協力を得ての次の事柄であった。

## ① 「鎮守の杜フェスタ」の開催

②「自然」との共生  
を学ぶ場の提  
供や、鎮守の  
杜「ビオトー  
プ」の学校へ  
の設置推進

## ④青少年健全育成シンポジウムの開催 （神社庁 参事）

神社宇賀間參与・別表神社宮司会	於 大宮「清水園」	6 . 6
神政連本部役員会・本部長會	於 本序	3 . 2
中山本部長出席	於 河野副庭長・前原參事參加	6 . 4
神政連中央委員会・事務局長會	於 江南町「ホテルヘリティイジ」	6 . 4
中山・井・小林・永根原・前原出席	於 千葉	6 . 5
正副神官參与・神社序役員会	於 大宮・永川神社	6 . 5
神官參与・評議員会	於 伊勢	6 . 9
教誨師会埼玉人会・評議員会	於 神社序	6 . 10
教誨師会埼玉人会・評議員会	於 神社序	6 . 17
教説委員会副委員長会	於 神社序	6 . 19
榎原茂吉司淨階一級准進祝賀会	於 「川越プリンスホテル」	6 . 15
前原參事出席	於 「川越プリンスホテル」	6 . 16
神社序協議員会・神政連代議員会	於 大宮「清水園」	6 . 17
神社序協議員会・神政連代議員会	於 大宮「清水園」	6 . 20
黑岩龍彥等司長老祝賀會	於 菊田序長出席	6 . 25
第一十四回埼玉県神社関係者大會(並審 査)於 埼玉県神社関係者大會(並審 査)	於 埼玉父宮記念会館	6 . 28
埼玉県宗教連盟講演会	於 川越カトリック教会	6 . 28
ほしのでんこんコンサート	於 三峰神社	6 . 28
祭式指導者養成研修会	於 神社序	7 . 3
祭式指導者養成研修会	於 箕輪稱荷神社	7 . 4
神道行法練成研修会	持出・寺出參加	7 . 7
神青会創立五十周年記念大会	於 石上神宮	7 . 9
一千方家庭神宮大麻泰廟運動第五回埼玉県推進會議	於 「川越プリンスホテル」	7 . 10
神社序・神政連絡會議	於 大宮・永川神社	7 . 17
神社序・神政連絡會議	於 新潟	7 . 25
京都府神社序一行來埼	於 神社序	7 . 25
本序役員会・菌田序長出席	於 本序	7 . 29
神社序式指導者養成研修会	於 神社序	7 . 29
高梨(竹本)多(多)參加	於 神宮道場	8 . 1
水川神社例大祭	於 河野副庭長參列	8 . 1
6 . 神社序祭り講師研修会	於 神社序	8 . 3
神社序役員会・神政連本部役員会	於 総理山神社	8 . 5
神政連本部役員会	於 賀登山神社	8 . 7
初任神職研修(十五名修了)	於 賀登山神社	8 . 7
神社序雅樂講師研修会	於 神本序	8 . 11
祭祀舞研修会	於 寶登山神社	8 . 11
十名修了	於 寶登山神社	8 . 11
日本公会議キャラバン隊来埼	於 神宮道場	8 . 11
埼玉県農業公会また修業会	於 神宮道場	8 . 11
一部都、県中堅堅神職研修会	於 神宮道場	8 . 11
平野・林・新井(君)參加	於 明治神宮會館	8 . 11
神政連本部役員会	於 神宮道場	8 . 11
祭式研修会	於 神宮道場	8 . 11
三六名修了	於 神宮道場	8 . 11
別表神社宮司懇親会	於 菊町	8 . 11
本序役員会	於 本序	8 . 11
教化正副委員長会	於 神社序	8 . 11
全國神社總代会	於 德島県	9 . 9
前原參事・高橋委員參加	於 中山副庭長・井上總代會	9 . 9
本序役員会出席	於 中山副庭長・井上總代會	4 . 2
教化正副委員長会	於 中山副庭長・井上總代會	4 . 5
長・前原參事・高橋委員參加	於 中山副庭長・井上總代會	長